

若草中学校区新小学校開校準備委員会 第2回

1. 日 時：令和6年10月19日（土）13：30～15：20
2. 場 所：佐保地域ふれあい会館
3. 参加者：委員 出席21名 欠席5名
オブザーバー1名
奈良市から10名（市長、教育長、教育部長、教育部次長、教育政策課、建築デザイン課）

4. 内 容

① 会長より当準備委員会の活動に関するお願い

- ・当準備委員会の最重要課題は、地域全住民に向けての情報開示を行うことである。各委員は単位団体の代表者として当委員会の議事内容を単位団体所属の方々に対して説明報告を必ず実行していただきたい。当準備委員会の全委員が地域住民への情報開示を積極的に取組んでいただくようお願いする。

② 教育政策課より報告（新校舎建設工事の経過について）（詳細は別紙資料のとおり）

- ・新校舎建設工事に関わるこれまでの経緯

8月9日開札予定であった新校舎建設工事の入札が不成立となった。8月30日令和6年度奈良市議会9月定例会に、建設工事費債務負担行為額を12億2,400万円増額する補正予算の議案を提出した。9月25日行財政改革及び公共施設等検討特別委員会で議案が否決となり、9月30日令和6年度奈良市議会9月定例会で議案が否決となった。

- ・議会で審議された主な論点

「増額約12億円について」、「工事期間について」、「開校時期について」が主な論点であった。

- ・新校舎建設に係る現状

当初の予定では10月から新校舎建設工事に着手することになっていたが、現状は議案の再提出に向けて精査中である。

- ・今後の予定

現在、工事費や工期の見直し等について精査中である。詳細な内容については、決まり次第お知らせする。

- ・補足事項（市長、教育長、建築デザイン課長より）

最近色々な公共工事で予算が合わず入札不成立となっている事例が発生している。今回、予想以上に我々が見積もった金額と市場価格に差があった。（市長）

建設工事は建築、電気、機械の工種で構成されているが、今回電気と機械の物価上昇が予想を上回るものであった。（建築デザイン課長）

今回、このような事態となっているが、統合再編についてはブレることなく子ども達のためにしっかりとやっていきたい。（教育長）

③ 質疑応答

- ・今回の統合再編は奈良の旧市街地のモデルケースになると考えているが、どのようにお考えか。

→市街地のモデルを目指すということは我々も全く同じ思いである。鼓阪と佐保もそうであるが、ある程度近い距離感の中で、良い環境が手に入るのであれば、子ども達のためにその環境をいち早

く作ってあげることが大切であると考えている。(市長)

- ・令和8年4月の開校は難しいと考えているが、開校はいつになると考えているのか。令和9年度には複式学級になると聞いており、市街地での複式学級は容認できないと考えている。

→子ども達にとっての1年は我々大人の1年とは重みが違う。できる限り子ども目線で子ども達にとって何が一番望ましいのかを大切にして、スケジュールを立てていきたい。教育委員会とも検討していくことになるが、令和9年4月の開校も一つの案であるとも考えている。(市長)

→新校舎建設工事が数カ月遅れることは事実としてある。新校舎建設中に子ども達を通わせることが良いのか、少しでも早く皆と学ばせることが良いのか色々な考え方がある。その兼ね合いを保護者や地域の皆様のご意見を聞きながら、適切に教育委員会として判断していきたい。(教育長)

- ・新校舎建設に伴う国からの補助金ですが、計画が変更になれば取り直しとなるのですか。

→鼓阪小学校と佐保小学校を統合再編する目的であれば、校舎建設にかかる補助金については完成が令和8年度になったとしても大丈夫である。(教育政策課)

- ・素晴らしい小学校をつくっていただけることに感謝している。次に議会に提出する金額の精査はどういった部分を精査しているのか。子ども達のために良い環境をつくろうと、これからのモデルになる学校をつくろうとしているにも関わらず、グレードを下げるなど、今考えておられる計画が後戻りすることは、奈良市の将来にとっても良くないと考えている。

→例えば、家具類をオーダーメイドから一部既製品に置き換えることや、エアコンの設置台数の見直しなど可能な範囲で見直しを図っている。また、工期について厳しいから人件費が上がるといった声もあるが、工期が伸びると仮設工事費が高くなることや、少しでも早く工事を実施した方が物価上昇の影響が少なく安価になるとも考えられるため、その辺りは検討中である。(市長)

- ・今回の新校舎建設工事は子どもに対する大きな投資である。学校建設については大きな感覚で物事をとらえてほしい。統合再編については、1年延びるのはほぼ間違いないと考えている。1年間であれば我々は統合再編に向け頑張っていきたいと思う。

- ・今の時点で話にでてくる程、子ども達は楽しみにしているので、校舎完成が遅れることは親として複雑な思いを持っている。開校のタイミングで6年生になる子どもは、新しい校舎を使えないまま、卒業してしまうことになる。現状ではグラウンドの半分は使えないが、校舎建設が遅れている状況でこのまま、放置しておくのか、土砂など撤去して使える状況にはならないのか。

→運動場の地中から旧校舎の基礎が出てきた。現在、その瓦礫を置いているが、工事開始後、撤去予定である。(建築デザイン課長)

→例えば、数カ月だけでも、グラウンドを広げることができたら違うので検討したい。(市長)

- ・跡地活用について、鼓阪小学校の講堂と職員室は避難施設として残すと説明を受けている。その他は噂では音楽学校ができるなど聞こえてくるが、どうなるのか。

→学校跡地なので、教育関係などの文教的なものと思っている。地域の方がどんな機能を望んでおられるかも、これから伺っていきたい。空いた空間をどう活用すれば、将来にわたって地域にとっても喜んでもらえるかを丁寧に考えていきたい。講堂はこの先も残すという意思表示をする意味でもしっかりと定義することは大事であると考えている。(市長)

次回11月開催予定